



長野県総合教育センター通信

しののめ

2020/05/25
(令和2年05月号)
第133号

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4

TEL (0263)53-8802 FAX (0263)51-1290 E-mail : kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

目次

- 「研修講座お申込みありがとうございました」・・・p.1
- 「受講決定後から研修日までに確認すること」・・・p.2
- 「見方・考え方が働く単元をつくろう①
(社会科)」・・・p.3

研修講座お申込みありがとうございました

本年度も多数のお申し込みありがとうございました。
受講の決定は、
6月17日(水)付けで送付予定の
「学校別受講決定通知書」をご確認ください。



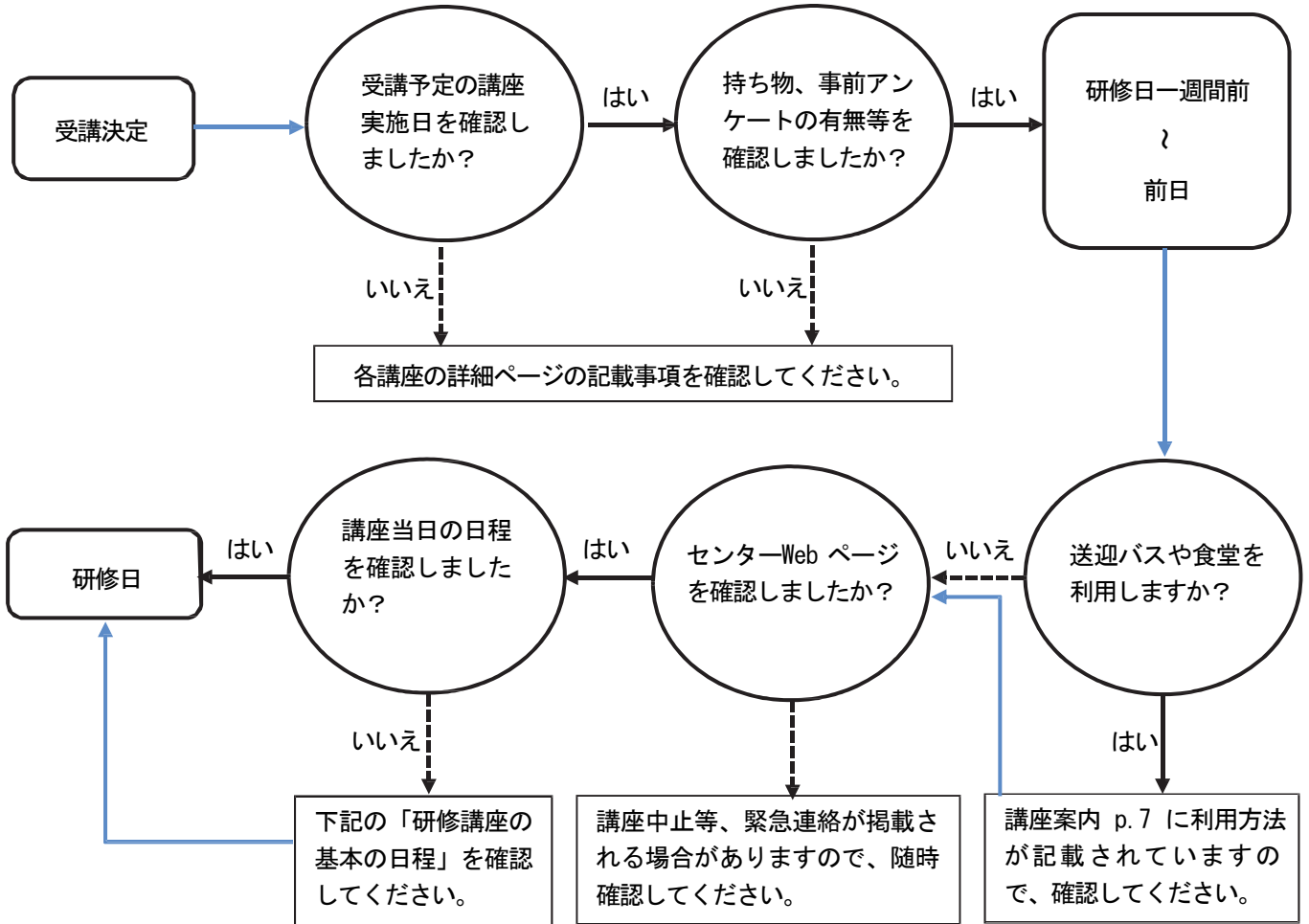
新型コロナウイルス感染症の感染状況により、7月以降も研修講座の中止、延期、講座内容の変更、講師変更等の措置をとる場合があります。
その際にはあらためて**学校代表アドレスへメールにて連絡**します。

追加募集する研修講座は、「学校別受講決定通知書」とともに学校にお知らせするほか、当センターのホームページにも掲載します。

受講決定後から研修日までに確認すること

(令和2年度研修講座案内見開きページより)

総合教育センターHPにも掲載されています。該当ページをご覧ください。



	研修講座の基本の日程	2日連続講座の第2日目の日程
受付	9:10～ 9:35	8:30～ 8:55
研修 (午前)	9:40～12:00	9:00～12:00
昼食	12:00～13:00	12:00～13:00
研修 (午後)	13:00～16:10	13:00～16:10

お願い

◇研修講座を欠席、遅刻、早退する場合、必ず管理職が電話連絡をしてください。緊急の場合も同様です。手続きについてはp.3～8を参照してください。連絡先は次のとおりです。

指定研修 0263-53-8804 (教職教育部)

希望研修 0263-53-8802 (企画調査部)

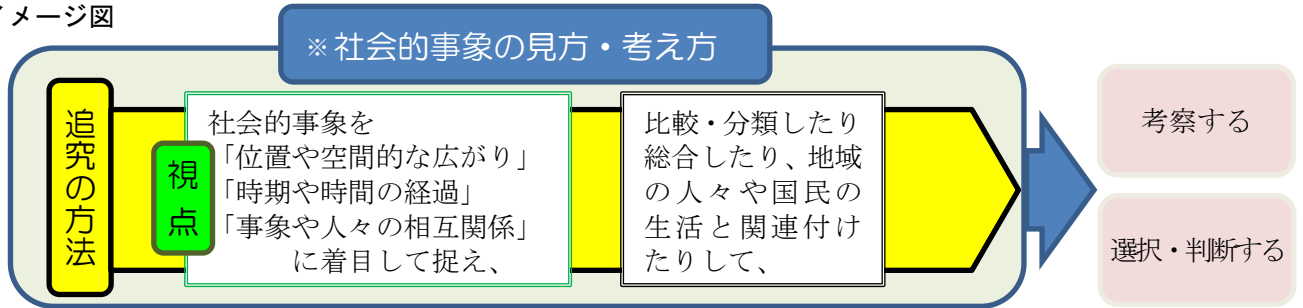
◇省エネルギー 総合教育センターは、省資源、省エネルギーに積極的に取り組んでいます。ゴミの分別のほか、クールビズ、ウォームビズにご協力ください。



「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする…」と学習指導要領に書かれていますが、社会的な見方・考え方を働かせるとはどのようなことでしょうか。

「社会的な見方・考え方」とは、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説（社会編）」

イメージ図



※小学校社会科では、社会的な見方・考え方の中の「社会的事象の見方・考え方」を働かせた学びを重視します。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。社会科の授業において、深い学びを実現させるためには、「社会的な見方・考え方」を働かせる「問い」を設定することが鍵とされています。つまり、単元の中に上記のような視点を生かした、考察や構想（選択・判断）に向かう「問い」を設定することが深い学びへの鍵となります。では、どのような「問い」が考えられるのでしょうか。小学校4年生の内容「県内の伝統や文化、先人の働き」の単元で、拾ヶ堰（じっかせぎ）を題材に具体的に考えてみましょう。



扱う題材：拾ヶ堰（じっかせぎ）

安曇野の堰の中でも拾ヶ堰は最大規模で、江戸時代後期の文化13年（1816）に開削された。幹線水路の延長は15km、ほぼ標高570mの等高線に沿って安曇野の中央部を貫いて流れ、高低差は5mほどである。開削は、10カ村の農村の指導者によって立案され、工事は延べ6万人以上の農民が参加し、約3カ月の短期間に工事を終えるという、驚異的な事業だった。現在は、約1000haが灌漑され、安曇野の今日を築いた文化遺産である。～安曇野市ホームページより～

①【位置や空間的な広がり】の視点を生かした「問い」

「なぜ山に向かって水は流れているのだろう。」

単元の第1時で水の流れを川と捉えている児童が多い中、右のような写真を提示し、「この水はどの方向に流れているのだろう」と尋ねます。山に向かって流れていると知ると、反対の流れを予想していた子どもの水は高い方から低い方に流れるという根拠が揺らぎ、疑問が生まれます。この疑問と根拠を学級で共有することで、「問い」をもって追究していくことが期待できます。



②【時期や時間の経過】の視点を生かした「問い」

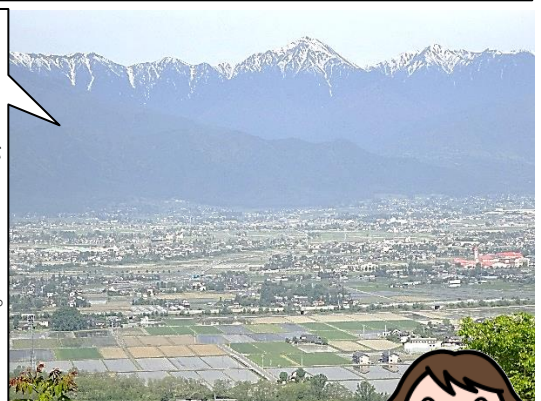
「人々は拾ヶ堰をいつ、何のために造ったのだろう。」

現地を歩き様子を見た後、拾ヶ堰は人によって造られた横堰（等高線にそって造られた堰）であることを確認していきます。造られた経緯や目的に関心を高めていく子どものつぶやきから、「問い」が生まれることが期待されます。そのような「問い」を追究することで、ねらいとする人々の努力や工夫に迫っていくことが期待できます。

③【事象や人々の相互関係】の視点を生かした「問い」

「拾ヶ堰は、今の私たちの生活とどのようなかかわりがあるのだろう。」

「昔の人はすごい努力や工夫をして拾ヶ堰を造ったのだ」で学習を終えてしまうと社会科の学習として不十分です。そこで、拾ヶ堰が現在の人々の生活とどのようなつながりがあるのか追究します。例えば、堰の周りの様子が分かる右の資料等を提示することは追究のきっかけとなります。「問い」を追究することで、「先人の努力により造られた拾ヶ堰を、人々は大切に受け継ぎ守り、稲作が続いてきた。おかげで安曇野は県内最大の米どころとなっている。今後も大切にしたい。」と先人への敬意と地域への誇りが高まることを期待できます。



「問い」は学習の方向を導くもの。社会的な見方・考え方を働かせる「問い」をどのように単元の中に位置付けていくのか、つける力をイメージしながら単元展開を構想していきましょう。

